

2. コガネシマアジの中間育成試験

1) 材料と方法

供試魚は当支場で種苗生産したものであった。方法はミナミクロダイと同様であった。試験区は4区で実施し、3区と4区はアルテミア幼生の投餌効果について比較試験を実施した。

2) 結果と考察

飼育結果は表15に示した。飼育期間中の旬別平均水温は図5に示してある。塩分濃度は27.8～34.75‰であった。

歩留りは1区と3区が53.0%、45.2%と良好であった。1区と3区はアルテミア幼生の投餌を実施した。アルテミア幼生の投餌を実施しなかった4区は17.2%と低い歩留りになった。前年度もプランクトンの少ない夏期に沖出ししたため、歩留りが8.8～32.4%と低い結果であった。特に今回は平均全長5.8～6.1mmと7.0mmの小型サイズで沖出しを実施したので、魚肉ミンチや配合飼料に完全に餌付くまで10日間要した。3区と4区の投餌量を表16に示した。

表15 コガネシマアジの中間育成結果

収 容				取 り 上 げ				
区分	月 日	尾数	平均全長	月 日	飼育日数	尾数	平均全長	歩留り
		尾	mm		日	尾	mm	%
1区	6月14日	20,562	5.8～6.0	7月6日	22	10,900	31.8	53.0
2区	6月14日	5,700	5.8～6.0	2月8日	239	2,245	130.4	39.3
3区	7月25日	27,187	7.0	8月15日	21	12,300	36.7	45.2
4区	7月25日	26,224	7.0	8月15日	21	4,450	34.8	17.2

表16 3区と4区における投餌量

区分 月日	餌料 日数	3 区			4 区	
		アルテミア ($\times 10^4$)	魚肉ミンチ (g)	配合飼料 (g)	魚肉ミンチ (g)	配合飼料 (g)
7.25	0	316.2	—	—	—	—
26	1	532.0	150	150	150	150
27	2	659.0	150	100	150	150
28	3	480.0	150	250	150	200
29	4	—	150	300	150	300
30	5	810.0	150	400	150	400
31	6	720.0	300	400	300	400
8.1	7	512.0	300	400	300	400
2	8	296.0	450	400	450	400
3	9	432.0	450	400	450	400
4	10	—	450	400	450	400
5	11	—	450	400	450	400
6	12	—	450	400	450	400
7	13	—	450	400	450	400
8	14	—	450	400	450	400
9	15	—	450	400	450	400
10	16	—	450	400	450	400
11	17	—	450	400	450	400
12	18	—	450	400	450	400
13	19	—	450	400	450	400
14	20	—	—	—	—	—
15	21	—	—	—	—	—
合計		4757.2	6,750	6,800	6,750	6,800

コガネシマアジは沖出し時に天然プランクトンのい集が十分であれば、高歩留りであったが天然プランクトンの少ない時期には歩留りが低かった。今回、沖出し直後の天然プランクトンい集不足をアルテミア幼生を投餌して補うことができた。今後、アルテミアに代る大型餌料の培養又は天然プランクトンの大量採集技術が必要である。中間育成時のコガネシマアジの成長は速く、平均全長5.8～7mmから平均全長約30mmになるまで21～22日間であった。